

◇平成7年度全国標準積算資料説明会報告◇

…… 宮城県 福島県 ……

積算委員会

東北地質調査業協会「積算委員会」の重要な活動テーマである「全国標準積算資料説明会」が、去る平成8年2月8日～9日の両日、宮城、福島両県に於いて盛大に開催されました。

今年は両県共に3年振りの開催でもあり、赤本（調査編）、青本（工事編）、海上（調査編）が全面に改定されてから初めての説明会で、両会場に参加した発注関係者数は通常よりも多く、講師の説明する内容を熱心にメモを取ったり、聞き入っていたのが強く印象に残りました。

今回の「赤本6年度改定版」は資料のサイズもB5版と大型化され、掲載内容も今までより充実し、特に最新の調査技術、耐震試験法、解析手法等も多く掲載され、積算上でも、作業の流れ、考え方が誰にでも理解し易くしている点が特徴です。

特に8年度版海上編は5年振りの改定となり、海上仮設作業工程全体の流れが一目で理解できるように、多くの写真を掲載した編集工夫も凝らされております。

青本（工事編）は既に発注官公庁の積算歩掛り基準がそれぞれ公表されており、主に作業全体の実態、流れ、内容が理解し判断できるように資料の編集を行っているのが特徴です。

尚、今後の歩掛り改定は4年毎に行われますが、「人件費機材等価格調査表」は毎年発行されますので発注関係機関の方々には東北地質調査業協会へご連絡下さい。

さて、講師は既に皆さん顔馴染みの「全地連専務理事 矢島壮一」氏にお願いし、2月8日の宮城会場は「パレス平安」平安の間に発注機関、協会会員約180名。又、翌日の福島会場は「杉妻会館」で福島県地質調査業協会と協賛で開催され、市町村等の各発注機関、会員等約150名、と非常に多くの参加者があり例年になく盛況な説明会でありました。

説明会に先立ち、東北地質調査業協会の永井理事長が挨拶され、平成7年は度重なる地震「釧路沖」、「三陸はるか沖」、「阪神大震災」等々数多くの震災が続き、日本経済に大きな影響を与えた暗い1年でありました。我々の業界も震災復興に際しては非常に多くの方々から協力貢献を行い、社会的にも高い評価を受けております。これからも業界として、技術の研修、研鑽と人材育成を進めて行きたいと思っております。特に今年は技術者の交流発表会（技術フォーラム）が9月12日～13日仙台会場にて行われます技術発表も100編を越え、参加者も全国から500名以上が見込まれておりますので是非皆様のご参加も期待してお

ります。

地質調査業界の役割と重要性、社会的認知を益々高める上でも、発注機関の皆様のご理解とご協力、当積算資料の積極的な活用をお願い致しますとの話がありました。

2日間の説明会を通じ、業界で取り組んでいる最新の調査技術、試験、解析技術等の紹介等についても、各発注関係者の活発な質問、ご意見も多く、出席者からのアンケートの提出にもご協力を頂き、今後の積算改定版作成の際には参考にしたいと思います。又、今後の業務等発注の節には今回の積算資料説明会が少しでもお役に立てればと考えております。

今回の説明会開催に当たりご発注関係者の方々のご理解と、東北、福島両協会関係各位の絶大なご協力を賜り成功裡に終了できましたことを心から厚く御礼申し上げます。

尚、平成8年度の説明会は山形県、秋田県を予定しておりますので宜しくお願いします。

以上



宮 城 会 場



宮 城 会 場



福 島 会 場



福 島 会 場